

知識は 旅をする



館内のご案内（6）対面朗読室
※視覚に障害のある方を対象に、ご希望の資料を音訳するサービスを行っています。

千葉県立東部図書館だより

2014年11月

第51号

■トピックス

▼歴史講座

「戦国武将 松平家忠と東総」

講師 内田龍哉 氏

(千葉県立中央博物館 自然誌・歴史研究部主席研究員 兼 歴史学研究科長)

日時 平成26年11月22日(土)
13時開場 13:30～15:30
場所 3階研修室

▼はつらっライフ講座

「いきいきライフのための終活」(仮)

講師 齋藤喜代美 氏

(八街市消費生活センター消費生活専門相談員、シニアライフアドバイザー)

日時 平成27年1月24日(土)
13時開場 13:30～15:30
場所 3階研修室

▼展示コーナー資料紹介

「戦国を生きた武将たち」

展示期間

平成26年10月18日(土)～
平成27年1月15日(木)

▼年末年始休館のお知らせ

12月29日(月)から1月5日(月)まで、
休館します。(5日は定期休館日)

なお、休館中でも資料の返却ができます
ので、東部図書館正面入口左側にあります
ブックポストをご利用ください。

ホームページURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



ゼロから理解するコメの基本

丸山 清明／監修 誠文堂新光社
2013 [6162/75]

日本の農産物としてまず思い浮かべるのは…何と言っても“コメ”でしょう。日本人が、健康な生活を送る上で、主食としての“コメ”がいかに大切なのか、さまざまな視点から紹介されています。古来から“コメ”は発酵食品やお菓子などにも加工され、私たちの食生活に豊かな彩りを与えてくれました。米粉パンに代表されるように、その利用方法は今なお進化し続けています。本書は、“コメ”の品種やルーツ、創意工夫された栽培の方法や流通など、様々な方向から“コメ”についてアプローチしています。

日本の食卓が洋食化している昨今ですが、本書を読んで“コメ”を見直してみたいか、いかがでしょうか。

東京・自然農園物語

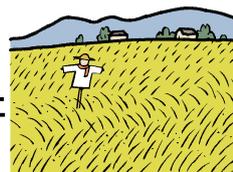
山田 健／著 草思社
2007 [9136/ヤタ9]

都心の安アパートの入居条件は、質の良い排泄をすること。そんなアパートの住人たちに突然4000坪の農地相続の話が舞い込みます。相続の条件は、有機農業を全員で5年間続けること。ヤクザ、ホステス、学生、コピーライターの素人4人が“手抜き農業”をめざし、下肥づくりや無人の販売所経営に挑戦します。そこで生まれた地域との交流や、旬の食材を使った料理とそれに合ったワインを楽しむ場面も見所の一つです。果たして彼らは望み通りに土地を手に入れることができるのか！？爽快な農業ライフをぜひお楽しみください。



究極の田んぼ

岩澤 信夫／著
日本経済新聞出版社
2010 [C616/5]



成田生まれの著者が、1980年代から提唱している奇抜なイネの栽培方法を紹介。「不耕起移植栽培」は、前年の稲刈り後の株の間に田植えをするという田を耕さない方法。「冬期湛水農法」は、冬も田の水を抜かない方法。これらは、肥料も農薬も使わずに収穫量も多く、冷害にも強いと言います。いろいろな栽培方法を試し、研究者や農家とのお付き合いも精力的にこなす一方で、農機具メーカーに依頼し、専用田植機の開発に10数年をかけました。「日本不耕起移植栽培普及会」を設立し活躍を続けた著者が2012年5月に亡くなった後も、その志は引き継がれています。

図書館ぶらり散歩 (37)

ザ・農業



ジャガイモの世界史

伊藤 章治／著 中央公論新社
2008 [6168/8]

南米生まれのジャガイモは、さまざまな時代に航路、陸路を経て、世界各国に普及していきました。麦、米、トウモロコシと並び、世界四大作物として私たちの食生活を支えるジャガイモ。なぜジャガイモ栽培は世界中に広まっていったのでしょうか。

それはジャガイモが私たちの救世主だったからです。世界の各地で戦争が起きたとき、人々の飢えを救ったのが「貧者のパン」と呼ばれるジャガイモだったのです。

こうした歴史的背景を踏まえてジャガイモについて知ることができる本です。ぜひ手にとってご覧ください。

※[]内は資料の請求記号です。

文学講座 千葉県が誇るべき歌人^{けっしん}蕨眞 —アララギ創刊者その人と歌—

平成26年6月14日(土)

今回の文学講座は『アララギ』を創刊した蕨眞一郎（蕨眞）についての講演を開催いたしました。講師には、歌人であり、斎藤茂吉記念館館長、元日本歌人クラブ会長の秋葉四郎先生をお迎えし、78名の方が聴講されました。

蕨眞は、山武市（旧山武町）出身の歌人です。正岡子規の門弟となり、同郷の伊藤左千夫との交友も深く山武町で短歌雑誌「アララギ」を創刊しました。秋葉先生は、高校時代より蕨眞を研究されていたようで、ご自分の貴重な資料を紹介されました。正岡子規に師事した蕨眞が「阿羅々木」を創刊するまでのいきさつや、蕨眞の歌を一首ずつ秋葉先生が声に出し、作品を読み味わい解説をすると「今まで蕨眞を知らなかったが近代短歌の源流を知り、短歌への関心が深まった」「蕨眞の人となり歌の魅力に引き寄せられ、声にだして詠む楽しさを教えていただいた」「郷土の歌人でありながら蕨眞を知らなかったが、話を聞き、偉大さがわかった」「蕨眞のご研究に対する情熱に感銘を受けた」等の感想が寄せられました。現在、秋葉先生が蕨眞に関する研究を執筆中とのことで、「本が早く出版されるのを楽しみにしています」といった声も聞かれました。

また、秋葉先生の著作物を多数県立図書館にご寄贈いただきましたのでどうぞご利用ください。



多田屋さんより「阿羅々木」創刊号をデザインしたしおりをいただきました

地域づくり支援講座 天保水滸伝でまちおこし！平成26年10月18日(土)

今回の地域づくり支援講座は「天保水滸伝でまちおこし！」という演題で東庄町観光ガイドの会会長の海上義治さん、東庄町まちづくり課産業振興係係長の加瀬博子さんをお迎えしました。当日の参加者を含めると80名という大勢の方々にご参加いただきました。

前半は、「天保水滸伝とは何か？その魅力を語る」という題で海上義治さんが天保水滸伝のあらすじと、当時の社会情勢をお話されました。笹川繁蔵も飯岡助五郎も地元の人々に愛されている



ことなどを解説すると「とても勉強になった」「時代背景の説明もあって、ただの侠客ではなかったことがわかった」「とてもわかりやすくてよかった」との感想が寄せられました。また、後半では、加瀬博子さんから東庄町のまちおこしの取組みについてお話をいただき、東庄町発行のガイドブックやパンフレットのセットが配布されました。また、プロジェクターでアニメ「天保水滸伝NEO」を上映すると「東庄に遊びに行きたくなった」などの感想が寄せられました。



古代の楽器

【 質問内容 】

縄文・弥生時代の土器と一緒に出土した楽器について、書いた本はあるか。

【 調査経過及び結果 】

- ①検索するためのキーワードを考えます。「楽器」「音楽」と「古代」「発掘」「歴史」「縄文」「弥生」などの組み合わせでの検索が考えられます。
- ②このキーワードで、千葉県立図書館 OPAC や国立国会図書館サーチ、CiNii (NII 学術情報ナビゲータ) を検索します。冊子体の『音楽文献目録索引 1～20 1973～1992』でも資料を探すことができます。
- ③また、②で見つけた資料から楽器を特定できたら『音楽大事典(全 6 巻)』や『国史大辞典(全 15 巻)』などの音楽や歴史の辞典を引くと、個々の楽器について解説が載っています。
- ④見つけた資料の分類(NDC)や著者、学術分野、キーワードを使って②から再度、検索します。良い本が見つからない場合は、Google などの検索エンジンでも検索します。この際、ノイズ*を生みやすいキーワードを除外して検索します。
今回は「音楽考古学」などを足し、「平城京」など異なる時代のキーワードを除きました。

*探している情報以外の不要な情報。

【 提供資料 】

- ・『楽器の考古学』(山田 光洋／著 同成社 1998) ※「日本音楽考古学関係参考文献一覧」あり。
- ・『埋もれた楽器 音楽考古学の現場から』(笠原 潔／著 春秋社 2004)
- ・『埴輪の楽器 楽器史から見た考古資料』(宮崎 まゆみ／著 三交社 1993)
- ・『縄文の音』(土取 利行／著 青土社 2007)

担当者のコメント 専門書や論文を探すには、大学図書館などの蔵書を検索すると、市販されない資料も見つかることがあります。また、各分野の目録や索引からも論文を探せます。Web は便利ですが、Web で検索できない情報を集めた本も多く存在します。バランスよく使うことで、効率の良い探索ができます。

■ 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。

お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。

■ 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。

グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言
読書週間(10月27日～11月9日)の標語「本をめぐるめぐる世界」は偶然にも2名の方からの応募があったそうです。この秋は、是非、お気に入りの本を探しに、お近くの図書館へお出かけください。

編集・発行：千葉県立東部図書館
〒289-2521

千葉県旭市ハの349

TEL0479-62-7070

URL : <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>